

# 名作映画から学ぶ裁判員制度



大阪弁護士会会員

坂和章平

Sakawa, Syohei

## 1 あれから5年、「二足のわらじ」は？

ホームページの開設 (<http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp/>) を契機に2001年10月から始めた私の映画評論家活動は、2005年5月号の「ひと筆」に『二足のわらじをはきたくて』と題して掲載された。あれから5年。当時5冊だった『SHOW-HEYシネマルーム』は今や25冊となり、鑑賞した映画は約2000本。コンプライアンスや交通事故、医療や法律等をテーマに映画ネタによる講演やラジオ出演も急増、CSテレビの「吉永小百合祭り」にも出演した。さすがに年間300本はしんどいが、年間200本は映画評論家の最低条件。頑張らなくちゃ。

## 2 夢の一部がこの本に実現

私の夢は『シネマから学ぶ法律』シリーズの出版だが、その一部が『名作映画から学ぶ裁判員制度』（河出書房新社・2010年3月）の出版で実現した。『十二人の怒れる男』（1957年）や『アラバマ物語』（1962年）は年配の人なら誰でも知っている名作だが、日本にも『12人の優しい日本人』（1991年）というメチャ面白い陪審モノがあるし、ロシア版『12人の怒れる男』（2007年）は重厚な人生ドラマ。また映画ファンなら誰でもジョン・グリシャム原作の『ザ・ファーム』（1993年）、『ペリカン文書』（1993年）、『依頼人』（1994年）、『評決のとき』（1996年）、『レインメーカー』（1997年）の面白さを知っているし、邦画では『事件』（1978年）、『疑惑』（1982年）、『ゆれる』（2006年）を観れば、裁判の疑似体験ができる。また陪審コンサルタントによる陪審票の獲得合戦を描いた『ニューオーリンズ・トライアル』（2003年）は、陪審制のヤバイ面をあぶり出した。公開時、毎日新聞が「この事件を裁くのはあなたです。急募、あなたの判決は？」と呼びかけた結果は有罪が58.9%、無罪が40.9%。これは有罪率が99%を超える日本の刑事裁判の実態とは大違いだ。裁判員裁判が定着すれば日本でもひょっとして？死刑を含む有罪・無罪の判決を下す裁判員を一般市民が務めるのは難しいが、それを学ぶには小難しい講義や講演より名作映画が一番。それが私の信念だ。

### 3 死刑判決の重みは？

2009年8月3日の第1号裁判員裁判から2010年7月末まで延べ904人に判決が下されたが、死刑の求刑も死刑の判決もなかった。初の死刑求刑事件は「耳かき殺人事件」。東京地裁は2010年11月1日①刑事責任は重大、②犯行態様は残虐、結果は重大、③遺族が極刑を望むのは当然、としながらも無期懲役とした。裁判員裁判初の死刑判決が下されたのは、直後の「歌舞伎町2人殺害事件」。11月16日横浜地裁は1983年に最高裁が示した死刑選択基準＝「永山基準」に照らして、①犯行は身勝手かつ悪質、②態様は執拗かつ残虐、冷酷と判示し、「極刑はやむをえない」とした。注目されるのは、「重大な判断になったので、裁判所としては控訴することを勧めたい」と異例の「説論」をしたこと。これは死刑に反対した裁判員への配慮や裁判員の精神的負担軽減等のためと推測されるが、その賛否は分かれるだろう。あらためて「死刑判決の重み」をかみしめたい。他方、千葉景子前法相は2010年7月刑場を公開し、死刑の存続賛否の議論を深化させようとしたが、それは奥が深く難しい。しかし、トム・ハンクス主演の『グリーンマイル』（1999年）やハル・ベリーが黒人初のアカデミー賞主演女優賞を受賞した『チョコレート』（2001年）を覗けば看守の目を通して、そして韓国の鬼才キム・ギドク監督の『プレス』（2007年）や、小池栄子が熱演した『接吻』（2006年）を覗けば死刑囚との面会を通じて、それぞれ死刑の是非を感じとることができる。また、ユダの裏切りによって囚われ磔にされたイエス・キリストの受難をメル・ギブソン監督流の解釈で描いた『パッション』（2004年）は衝撃作だったが、あなたは神の子イエスの「裁き」をどう考える？死刑執行のあり方のみならず、死刑の重みを考えるには、こんな名作が最適だ。

### 4 冤罪の恐さは？

郵便不正事件をめぐる元大阪地検特捜部検事らによる捜査資料の改竄・隠蔽事件は検察庁を揺るがす大不祥事だが、「自白は証拠の王」という旧態依然とした価値観とずさんなDNA鑑定が生んだ「足利事件」の恐さもこれと同じ？高橋伴明監督の『BOX 袴田事件 命とは』（2010年）とも重ね合わせながら勉強したい。痴漢行為をテーマとした周防正行監督の『それでもボクはやってない』（2006年）は、明日はわが身？と案ずるおじさんたちの教材に最適だ。キーラ・ナイトレイ主演の『つぐない』（2007年）は第二次世界大戦直前のロンドンから始まる一大叙事詩だが、そこでは13歳の少女がついた1つの嘘が男の運命を変え、恋人だった姉の未来を奪った。こりゃまさに冤罪の典型だが、最後に明かされる「あっと驚く真実」とは？松本清張の推理小説のファンだったあなたには、山田洋次監督＋倍賞千恵子版（1965年）、西河克己監督＋山口百恵版（1977年）の『霧の旗』が懐かしいはず。犯

人は左利きだ！膨大な記録検討の結果そんな重大な結論を得たが、時は既に遅し。冤罪晴らしに十分役立てなかった弁護士を襲った悲劇は、ひょっとしてすべての弁護士への警告？

## 5 戦争犯罪だって、名作映画から

B級戦犯・岡田資中将の「法戦」を描いた『明日への遺言』（2007年）は、私も選定員の1人となった2009年の第4回おおさかシネマフェスティバルで藤田まことが主演男優賞を受賞した名作だが、A級戦犯とされた東條英機の東京裁判を描いた『プライド 運命の瞬間』（1998年）との違いは？法廷での検察側・弁護側の息詰まる応酬や見事な裁判長の訴訟指揮を見るだけでも有益だが、それ以上に裁くのも裁かれるのも人間だという本質に注目！私が小学生時代に母親から聞かされたフランキー堺主演の名作『私は貝になりたい』（1958年）が2008年に中居正広主演でリメイクされたが、なぜ牛や馬と同じ二等兵がC級戦犯に？裁判の不条理性も、こんな名作からしっかりと学びたい。

## 6 この論点は？あの論点は？

『39 [刑法第三十九条]』（1999年）を観れば心神喪失問題を、『誰がために』（2005年）を観れば少年犯罪と少年法を考える教材になる。阪本順治監督の『闇の子供たち』（2008年）からは臓器移植の問題点がくっきりと。2010年7月施行の改正臓器移植法によって家族の承諾のみによる死亡臓器の移植例が急増したが、難しい議論を重ねるよりも本作を鑑賞する方が有意義だ。『ミリオンダラー・ベイビー』（2004年）は実は安楽死・尊厳死がテーマの映画だが、『海を飛ぶ夢』（2004年）は直截的にその論点に迫る。東海大安楽死事件判決（横浜地裁平成7年3月28日）が明示した4つの要件を充足しないケースで、尊厳死を実現するためにNPO団体が生み出したある工夫とは？危険運転致死傷罪が2001年12月に制定されたが、それは『0（ゼロ）からの風』（2007年）で描かれた1人の主婦の署名活動から始まったことを知ってる？ヒラリー国務長官の夢である国民皆保険制度が米国でなぜ容易に実現しないのかは、デンゼル・ワシントン主演の『ジョンQ』（2002年）を観ればよくわかる。巷で起きる保険金詐欺事件の手口は、大竹しのぶの「自殺でも保険金は下りるの？」という電話から始まる衝撃作『黒い家』（1999年）で学びたい。韓国版『黒い家』（2007年）による、指狩り族や特殊調査員など保険会社特有の「闇の世界」日韓比較も興味深い。その他、公然わいせつ罪なら『クイルズ』（2000年）、逮捕監禁罪なら『完全なる飼育』シリーズ、二重処罰の禁止という憲法や刑訴法の大原則を学ぶには『ダブル・ジョパディー』（1999年）がある。そう、明日裁判員になるかもしれないあなたがこの論点、あの論点を学ぶには、こんな名作映画が最適なのだ。